

氏名	須 崎 紀 一
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 2889 号
学位授与の日付	平成7年 6月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Effects of Cyclosporine A on Experimental Hepatic Metastases of Mouse Colon-26 Tumour(マウスcolon-26腫瘍を用いた肝転移実験 モデルにおけるシクロスポリンAの効果)
論文審査委員	教授 辻 孝夫 教授 清水 信義 教授 中山 睿一

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

マウス大腸癌肝転移実験モデルを用いて、Tリンパ球系に対する選択的免疫抑制剤であるシクロスポリンA(CSA)の肝転移に及ぼす効果を検討した。

肝転移モデルは、エーテル麻酔下にて6週令CDF1マウスを開腹し、腸間膜静脈より、in vitroにて継代培養されているColon-26マウス大腸癌細胞 5×10^3 個を直接門脈内に接種して作成した。細胞接種前からCSA10mg/kg/dayを連日皮下投与すると、肝に形成される転移結節数は著明に増加し、この肝転移促進効果はCSA投与量との間に正の相関関係が認められた。またCSAを投与しないマウスでは認められない肺転移および腹膜播種がCSAの投与で認められた。このことはCSAによってマウスを免疫抑制状態におくと、肝・肺転移ならびに腹膜播種が増加することを示唆する。次に、細胞接種後の5-FUの投与(15mg/kg/day、隔日にて10回投与)により肝転移の抑制が認められたが、この抑制効果はCSAの併用投与を行った場合には認められなかった。このことは、マウスの免疫状態が正常に維持されていない状態では、5-FUの肝転移抑制効果は消失し、発揮されないことを示唆する。これらの結果から、宿主の免疫系が肝転移の形成に関与するものと考えられる。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、colon-26マウス大腸癌細胞を6週齢のCDF1マウスの門脈内に直接注入し、CSA(シクロスポリンA)による肝内転移の効果を検討し、CSAにより転移結節数が増加するとの興味ある成績を得ている。又、さらに5-FUの効果についても研究しているが5-FUも単独で肝転移を抑制するが、CSAとの併用では抑制効果が消失するとの個体の肝内免疫能を介した機序があることを明らかにしている。

よって本研究者は博士(医学)の資格があると判定する。